

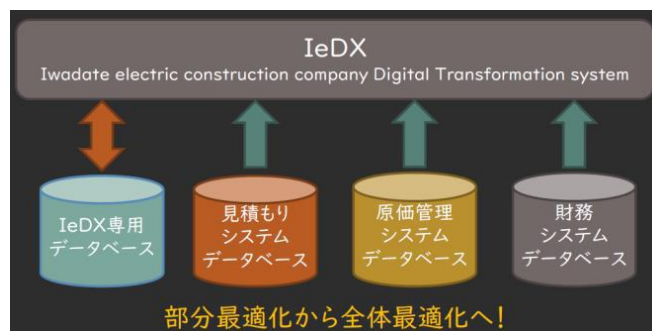
DXによる見える化の徹底とビジネス革新

岩館電気株式会社（岩手県盛岡市）

電気工事業 資本金3,200万円 従業員数74名

会社概要

1945年創業。盛岡市に本社がある電気工事の会社。宮古・釜石・秋田に営業所、北上に出張所がある。病院やショッピングセンターなどの電気設備の施工を行っている。



社内のあらゆる情報をデジタル化・見える化し、経営状況を社員全員で把握可能に！

建設業で課題になっている残業時間削減・ペーパーレス化による売上・利益の向上や給与アップ、完全週休二日制を実現。

取組の背景は？

建設業は全てが受注生産であり、長期の現場も多く、各現場ごとにノウハウが異なる傾向があるためDXが遅れがちな業界であった。また大型図面も多くペーパーレスも進んでいなかった。この状況を打破するため、まずは、社内にある情報の「見える化」に取り組んだ。

具体的な取組内容は？

あらゆる経営情報を見える化する「ホロクラシー経営」という概念に触発され、社内ポータル「IeDX」を自社開発し、社内に蓄積されているデータの見える化を徹底。社内のほとんどすべての業務をデジタル化し、その情報を見える化・社内公開することで、経営状況を全社員がリアルタイムに把握することが可能になった。たとえば、見積もり状況、各現場の予算執行状況、販管費、勤務時間・残業時間の、社員の資格一覧、給与支給額（経営層のみ閲覧可）などを見える化している。これらの取組により、現場ごとの利益率や経費などを社員全員が閲覧できるようになり、残業時間と経費の意識付けが進んだ。

さらに2023年10月より義務化されたアルコールチェックについても自社でシステムを構築。市販の安価なアルコール検知器を社員に持たせ、毎日スマートフォンでチェック結果を自撮りをしてサーバにアップロードし、管理者が結果をチェックする仕組みであり、実施時刻と場所も記録されるため勤怠管理にも役立っている。（サブスクリプションで外販も実施。）

工夫したポイントは？

- ・IT化に取り組む際には社内理解を重視。たとえば原価管理サーバを導入する際は業者にプレゼンをしてもらい、使うソフトウェアを社員に決めてもらうことで当事者意識を高めて導入するなど工夫し、社員の意見を取り入れながら変革を進めたため、IT化やDXへの反発はおきなかった。
- ・IT化にあたっては、社内開発・オープンソース・パッケージソフトのバランスを重視。例えば基幹業務ソフトウェア（見積もり、原価管理、財務）は市販品であるが、データの閲覧は社内で開催したポータル「IeDX」を通して行う形にしている。これにより経営に必要なデータを必要な形で誰でも1か所から閲覧できるようになり、社内情報の民主化が実現できた。IeDXは自社で採用したプログラマーが作成しているため、社内のニーズに応じて日々進化を続けている。

効果は？

経営状況を社員全員で把握できるようになったため、建設業で課題になっている残業時間削減やペーパーレスに対応でき、さらには一部のソリューションの外販により収益にも貢献している。結果として売上・利益が向上、給与アップ、完全週休二日制を実現。

DXの様々な取組を公表することで、岩手県より「働き方改革AWARD」を受賞。採用も好調となっている。